

30Q-pm29

薬学広報活動としての試み：高大連携『医療・薬学』講座／いきいき県民カレッジの開講

北川 幸己¹、白崎 仁¹、福原 正博¹、星名 賢之助¹、○杉原 多公通¹、
尾崎 昌宣¹、飯村 菜穂子¹、酒巻 利行¹、朝倉 俊成¹、影向 範昭¹(¹新潟薬大薬)

【目的】平成 18 年から薬学教育が 6 年制に移行したが、修業年限の延長とこれに伴う学納金負担の増大のためか、志願者の減少、入学辞退者や早期退学者の増加等の問題を抱えている。これらの主たる原因は、「薬学部」に対する高校生のイメージが現実のものとかげ離れていることにあると考えられる。そこで、「薬学部」の広報活動の一翼を担うことを目的として、本学内で開講している薬学導入教育の座学の部分を高校生や一般人に開放し、科目等履修生として単位を授与する試みを行った。

【方法】高大連携『医療・薬学』講座と銘打ち、5 月中旬から 9 月初旬までの間に全 10 回の講義や参加型授業、4 回の実験、2 日間にわたる医療現場体験を盛り込んだ講座を企画した。また、本講座を新潟県が主催する「いきいき県民カレッジ」事業としてサポートしていただいた。講義や参加型授業は、高校で学習する科目と薬学とのつながりや薬学の歴史、薬学部で学習する内容の概要や現在の薬剤師の仕事伝える内容を設定し、これらのうち 4 回の講義と関連した実験講座を開講した。全 10 回の講義や参加型授業を受講した学生のうち 7 回以上の出席をした学生に対して、単位認定試験の受験資格を与えた。

【結果】中学生 6 名、高校生 77 名、一般社会人 85 名の参加があり、受講生の延べ人数は 1000 名を超える結果となり、十分な広報活動が行えたと考えている。単位認定試験受験資格者 80 名のうち 33 名が試験を受験し、科目等履修生の制度を利用して本学で開講している「薬学への招待 I (0.5 単位)」および「科学と薬学 II (0.5 単位)」の単位を取得した。過去 5 年間の取組み結果の比較や、受講生アンケートの結果も同時に発表する。